

### 3 各事務室報告

#### 3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、図書館の事業計画、自己点検・評価、統計調査、予算管理、委員会等の会議運営など図書館全体に関わる管理運営を行っている。このほか具体的な業務として、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、業務委託・電子資料等の契約、理事会・学部長会等審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当している。

予算面については、期首において5%の法人措置が取られた予算配付となっていたため、各事業実施計画においてはかなり切り詰めた予算配分が始まった。入学定員充足率に応じ、期中において法人措置5%満額が移管されたことで、必須案件、余裕があったほうが良い案件、前年度から削減できる案件について改めて順位付けをし、メリハリのある予算配分を行った。図書費については、予算額7億円台を目指した継続的要求に加え、為替変動による円安傾向から、外国雑誌及び電子資料購入予算の獲得に向け、理事者、関係部署への説明を行った。また、新たなサービスとして計画しているデジタルアーカイブシステム、ディスカバリーサービスの導入経費等について、情報メディア部との調整も行った。このほか、業務委託を行っている開館業務の契約費用の値上げも示されたが、実質的にはスタッフの賃金アップを意味していることから、サービスの質向上につながるとして予算確保に取り組んだ。

図書費の運用については、2021年度に見直した予算の枠組みで実施した。教員による資料購入申込みに関しても、選定・発注等業務に関しても、枠組みが整理されたことで理解しやすくなり、一部課題も明らかになった面もあるが、大きな混乱なく進められた。

また、コロナ禍対応で学外利用者の利用停止期間を設けていたが、利用再開に先立ち、登録料の返金処理を閲覧部署と連携しながら行った。

ここで、電子書籍契約に関して特記しておく。本学が契約する電子書籍について、他の契約機関において利用規約違反があったことから、当該電子書籍提供元が全契約機関に対して、ダウンロード制限を行う事態が発生した。正しく利用している機関に対しても一部利用制限を実施されたことは大変遺憾であり、サービス低下となるため、早急にサービスを再開すること、利用制限の適用範囲について見直すことを要望書として提出した。このような動きは、本学だけではなく、大学図書館コンソーシアム連合（以下 JUSTICE）をはじめ、個々の大学からも行われた。

図書館総務事務室の担う業務について、このほか、マンガ図書館関係業務がある。2009年度から明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営、マンガ図書館運営委員会の事務局を兼務している。2021年度に米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の蔵書のほとんどが駿河台キャンパスに集約され、両館の複合的な運用として利用者へサービスを提供している。

##### (1) 目録・装備業務委託

2010年度に目録・装備委託業者を切り替え、13年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告・業務効率アップ・品質維持向上等について協議している。業務委託を継続することによりスキルが安定・向上し、新刊書だけでなく特色あるコレクション整理の戦力となっている。

本学は国立情報学研究所（以下 NII）が運用するオンライン共同分担目録 NACSIS-CAT に参加している。2023年1月31日に新 NACSIS-CAT が運用開始となり、NII 側のデータ移行作業に伴い約1か月間システム停止となったため、業務は大きな影響を受けた。

2022年度は、昨年度に引き続き冊子体新刊図書の購入冊数が減少傾向にあった。そのため代替作業として大岡信文庫の重複調査・目録・装備（計2,315冊）、電子ブック書誌データの整備（計5,604件）を行った。

##### (2) 特色あるコレクションについて

###### ●大岡信文庫

2017年1月、大岡信ことば館（静岡県三島市）の閉館にともない大岡信元法学部教授の旧蔵書約26,000冊の寄贈の申し入れがあり、特色あるコレクションとして受け入れすることを決定した。2021年6月より整理を開始し、以後継続して行っている。2022年度は2,315冊（和書2,200冊・洋書115冊）の目録・装備を行い、整理冊数の累計は5,330冊となっている（2023年3月31日現在）。2023年度も継続して整理を行う予定である。

**(3) 図書受入・検収業務**

電子ブックの積極的購入推進の影響もあり、冊子の受入数は減少傾向にある。会計監査・内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。

**(4) 雑誌受入・検収・整理業務**

冊子体から電子媒体への移行や、インターネット公開されているものの受入中止などに伴い、雑誌受入数は減少傾向にある。

NII 登録所蔵一括更新ほかの業務委託によるデータ整備も順調に実施している。

**(5) 電子資料契約関連業務**

昨年度のデータベースにおける利用規約違反を受けて、総合数理学部 FD 研修等教員に向けた講習会を実施した。今年度も別のデータベースにおいて利用規約違反があり、電子資料における利用者教育の強化が課題である。

2023年(度)に向けて、JUSTICE に対し 10 件のオープンアクセス (以下 OA) 提案があり、本学は前年に続きケンブリッジ大学出版 (CUP) の Read & Publish 提案を契約した。2020 年～2022 年の本学研究者による OA 出版実績は 3 件だった。大学全体における OA 推進のためには研究推進部との連携が不可欠であり、今年度は今後の連携に向けて研究知財事務室とキックオフミーティングを行った。

また、前年度に引き続き、就職キャリア支援センターと共催で就活データベース講習会を開催した。春学期 3 日 (オンライン) と秋学期に 2 日 (オンライン・対面各 1 日) 開催し、延べ 612 名の参加があった。

その他、「1.3 円安による外国雑誌及び電子資料への影響と対応」及び「2.3 電子資料分科会」も参照のこと。

**(6) リポジトリ業務**

2022 年度も継続して著作権者への許諾書発送及び許諾論文のメタデータ、PDF データの作成を業務委託により実施した。論文登録数は、紀要 563 件、博士論文 25 件、学術雑誌論文 15 件、その他 1 件であった。本年度も学内紀要編集事務局と連携して、代行許諾・包括許諾化を推進した。2019 年にオープンアクセス方針が制定されたが、学内認知度を向上させ、学術雑誌論文のリポジトリ登録数を伸ばすことが課題である。

また、リポジトリシステムを D Space (自前サーバ) から JAIRO Cloud (NII 提供) へ移行した。このことにより、セキュリティと機能が向上された。

**(7) システム関連業務**

専任・嘱託・派遣職員が利用している業務用パソコンについて、情報メディア部から各部署へ支給される事務パソコンへのリプレースを実施した。図書館員が利用する業務用パソコンについては、図書館基幹業務システムの制約などの関係により図書館で別途調達して利用してきたが、2022 年度時点で当該制約は解消されており、移行が可能だと判断した。他部署と併せて情報メディア部で一元管理している事務パソコンへ移行することで管理負荷の軽減とセキュリティの強化を図り、大学全体の視点から考えた場合に望ましい形に戻すことができた。

事務パソコンの利用にあたり、図書館基幹業務システムを利用するためのミドルウェア、ソフトウェアインストール等の初期設定がやや煩雑となることから、初期設定作業をまとめたバッチを作成、提供した。これにより各人で行う作業を最小限に留め、効率的にリプレース作業が実施できた。なお、業務委託者については引き続き図書館で調達した業務用パソコンを使用する。

米沢嘉博記念図書館及び現代マンガ図書館の出納管理システムをスクラッチで新規開発した。両館の統合 OPAC システムから送信されるレファレンスや出納依頼データなどを API 連携にて受け取り、出納処理の進捗状況の更新、管理を行うシステムとなる。OPAC システム管理ベンダーや現場担当者から現状業務フローや要望のヒアリングを細かく行い、本学運用に適したシステム構築を目指した。2022 年 10 月末から大きな問題もなく本稼働している。本稼働後も細かい要望などがあったが、内製システムのため柔軟に対応することができている。

大学の統合認証基盤の更新に伴い、図書館の認証システムも一部改修を実施した。図書館の認証システムは OPAC ポータルサービスや、電子ジャーナル、データベースを利用する際の利用者認証、学認認証に使用されていることから非常に重要な位置づけとなり、障害時には利用者影響が大きいものとなる。大学統合認証基盤の管理部署であるシステム企画事務室と密に連携を取り慎重にテスト、本番適用を進め、問題なく改修を完了

できた。

### 3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、2020・2021 年度に引き続いて、コロナ禍による大学が設定した活動制限指針に則り、利用を制限しながらの運用となった。マスク着用や消毒による入館利用、学外利用者の入館制限、座席の間に間仕切りを新たに設置するなどして感染防止対策を講じながらの運営となった。開館時間は 2021 年度に引き続いて短縮することなく、例年どおりの時間での開館運用となった。年度末には、新型コロナウイルス感染症への警戒レベルが引き下げられたことを受け、大学が 2023 年度よりコロナ禍前の状況に戻した平常時の体制とする方針を打ち出したことから、今まで講じてきた感染防止対策を取り払った運営の準備を整えた。

運用面においては、開架や書庫の書架狭隘化は喫緊の問題となっており、抜本的な蔵書計画を見直し、自動書庫の在り方や改善、外部倉庫の利用も含めて検討して進めていかなければならないと認識している。そして、中央図書館内におけるラーニング・コモンズ施設の設置なども課題として捉え検討を重ねた。

また、各館での閲覧・蔵書に関する運用調整については、中央図書館担当者が担っており、2022 年度では、新たな利用者区分への対応や貸出に関するサービス変更などを適宜調整するなどして、運用の見直しや変更について中心的な役割を担った。

業務体制は、専任職員 8 名、短期嘱託等 4 名、業務委託スタッフ（統括・責任者含む）28 名により、通常業務に加え、コロナ禍における新しいサービスや館内利用において安全な環境づくりにも対応しながら運営しているが、今後の図書館業務の在り方や見直しを含めて検討を行った。

#### (1) 開館日数・入館者数等

2022 年度の図書館開館は、新型コロナウイルス感染症の影響や台風などの自然災害の影響を受けることなく、予定どおり 334 日の開館となった。入館者数は、昨年度に引き続き学内者（学生・教職員ほか）のみの利用で通常どおりのスケジュールで運用としたところ、昨年度比約 51% 増の 288,061 名となった。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受けなかった 2019 年度の平常期と比較するとまだ約 40% 減の状態ではある。2020 年度から利用制限を継続しているが、2022 年度に大学の授業もオンライン授業を併用しつつ感染拡大防止に留意して対面授業を再開したこともあり、利用者は増加傾向となっている。ローライブラリーについても、中央図書館同様、通常どおりのスケジュールでの運用開館となった。

また、昨年度に引き続き、大学が在宅受講特別配慮者を認めたことから、配慮認定者から図書サービスを希望する者への対応を行う体制をとった。

学外利用者についても、2021 年度に引き続いて図書館の利用制限を継続し、利用再開を見越した運用の在り方を中心となって推し進め、各館や業務委託へのコンセンサスを確認しながら方策を講じ、再開時に万全に対応できるよう準備を行った。

#### (2) 教育・研究支援

閲覧席は、2021 年度に引き続き閲覧席等の間引き、グループ閲覧室の利用停止での運用としたが、大学の活動制限指針や新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら順次閲覧席の席数を増やす対応を適宜行った。席数は、2022 年 4 月 1 日時点の閲覧席 818 席から、段階的に 2023 年 3 月 31 日時点で制限をなくした閲覧席全席である 1,134 席へ利用拡充を行い、新年度から大学活動制限指針撤廃への図書館対応を準備した。

新任教員ガイダンスは、昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止し、各教員へ個別に資料配付する対応となった。

中央図書館ガイダンス及びゼミツアーも、昨年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の影響により、原則としてオンラインでの対応としたが、対面によるゼミツアーを強く希望する場合は、人数の上限を設定し対応することとした。

駿河台及び和泉キャンパスで実施される全学共通総合講座「図書館活用法」の担当講師については、テーマによっては図書館職員が担当し、昨年に引き続きオンライン授業による対応となった。

2022 年度図書館講演会「読書人カレッジ」は、2 回開催したうち第 1 回目を中央図書館多目的ホールにて、長崎尚志氏を迎えて開催した。

年度末には、コロナ禍により実施できなかったギャラリーへの展示を、2019 年 7～9 月に開催した「図書の文化史」の再公開という形で実施し、ポストコロナを意識した対応を行った。

第 12 回を数える書評コンテストを実施し、2 月 3 日に中央図書館多目的ホールにて授賞式を執り行った。

**(3) 施設・設備**

老朽化により故障の多かったライブラリーカードを作成するカード作成機をリプレイスし、2023年度から段階的に利用再開となる学外利用者のライブラリーカード作成に迅速に対応できるよう準備を行った。

年度末に、大学で利用しなくなった備品を図書館内で有効活用するため、閲覧席用に個別荷物入用のバスケットを1F及びB1Fに設置した。想定していたよりも多くの方が利用している。

中央図書館でのラーニング・コモنزの設置について、事務室内でチームを結成し検討を開始した。東京都市大学、日本女子大学のラーニング・コモنزや、2022年3月に竣工した和泉キャンパス「ラーニングスクエア」の見学を行い、検討会議を重ねた。

館内の空調における外気取り入れ量は、コロナ前と同様の量に戻したが、書庫内の空調設備近くの資料にカビが付着するケースが多発した。その都度担当者によるカビのふき取りや、業者を入れてのカビの除去を徹底した。

館内でのパソコン利用は1F及びB1Fに限っていたが、利用者からの声を受け、年度末にB2Fでのパソコン利用を実現するため電源及び無線LANの敷設工事を行い、2023年度から利用開始できるよう準備を行った。

**(4) 蔵書**

開架や書庫の書架狭隘化により、抜本的な蔵書計画を見直し、自動書庫の在り方や改善、外部倉庫の利用も含めた問題が山積しており、2022年度は自動書庫の改修や自動書庫内の資料の除籍候補の選定作業などについて検討を行った。自動書庫施設の解体や外部倉庫の利用については莫大な費用がかかることから抜本的な解決には至らず、マイクロ自動搬送装置のコントロール機器のOSの更新を行うだけの対応となった。

除籍した資料は、利用者へ還元するため「あげます本」コーナーを設置して運用していたが、2022年度は大学財政への貢献を行うため、古書店によって選定し引き取られた資料の売上げを大学へ組み入れた。

例年行っている明治大学シェイクスピアプロジェクト（MSP）関連、資産管理課とコラボした環境展関連、書評コンテストにまつわる資料や受賞した資料についてのミニ展示を、中央図書館入館ゲート近くで行った。更に、新たにレインボーサポートセンターとコラボしたLGBT関連、元法学部教授であった大岡信賞受賞の図書の展示を実施するなど、例年よりも積極的にミニ展示を行い、利用者の興味を惹きつけた。また、図書館以外の部署との協力による展示が増えている。

**(5) 社会連携・地域貢献**

2020年度から中止となっていた千代田区内図書館連携連絡会議が2022年6月に再開となり、各大学での取り組みやコロナ禍での図書館運営の仕方について情報交換を行った。

**(6) 上記以外の特記事項**

2022年5月中央図書館内にて、本学政治経済学部在籍スケート部所属の本田真凜さんへの取材が文藝春秋社によって行われた。記事については、「Number Web」へ掲載された。

オープンキャンパス参加者の中央図書館見学については、館内自由見学として対応した。駿河台キャンパスで開催したオープンキャンパスの参加者が4日間で延べ約15,600名であったのに対し、図書館見学者は10,338名であったことから、参加者の7割弱が図書館見学に訪れたことになる。

本学へ訪問したマレーシア行政官や、本学社会連携機構による震災等復興活動支援の一環で招待した相馬市立中学校生グループなどについて、中央図書館見学を行い対応した。

**3.3 和泉図書館事務室**

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、コロナ禍以前のサービスレベルを維持した運用を行ったが、学外利用者等の利用制限は引き続き継続した。

また、和泉キャンパスでは、新たな教育棟であるラーニングスクエアの運用が開始となり、図書館との連携サービスも一部開始された。

**(1) 開館日数・入館者数等**

今年度の開館日数は、322日で昨年度と同等であったが、入館者数は、516,464人で、前年度比57%増となった。入館者の増加は、年間をとおして利用制限期間がなかったことが主な要因であるが、過去5年間の統計からは、入館者の減少傾向が読み取れる。

## (2) 教育・研究支援

昨年度に引き続き、利用案内・資料検索等のオンラインコンテンツを年度初めに用意し、学生・教員に提供し、図書館リテラシー教育の一環とした。

コロナ禍以前に行っていた図書館内でのゼミガイダンスについては、2021 年度から上記のオンラインコンテンツを活用して教員が主体的に実施する方式に変更し、これが定着した。一方で、それとは別に、主に新入生向けに、図書館内のツアーを要望する声は何件か寄せられた。

## (3) 施設・設備

1 階及び 2 階の全体並びに 3 階の一部の書架照明が LED 化され、図書への負担の軽減に加え、省エネルギー化が実現した。残りの書架は、2023 年度にすべて LED 化される見込みである。

故障が頻発していた情報リテラシー室のプロジェクタを、天井設置型から携帯可能な短焦点型に変更して更新した。

年度末には、閲覧席に設置していたパーティションをすべて撤去し、調整していた座席数も元に戻し、すべての閲覧席の利用が可能となった。

## (4) 蔵書

例年どおり、蔵書点検・除籍処理をそれぞれ 2 回実施した。そのほかの主な作業は以下のとおり。

- 開架図書について、汚損本、破損本の抜き出し作業を前年度からの継続で行い、一巡させ、資料の電子化に伴う雑誌の配架見直し、面陳図書の入替えを行った。
- 参考図書の点検を実施し、新版が出版されているものや破損・汚損が激しい資料については、買替えを実施した。
- 江波戸コレクションの整理業務が完了し、2023 年度から利用を開始することができる状況となった（利用制限あり）。
- 生田保存書庫に仮置きしていた資料の処理が計画より 1 年前倒しで完了した。

## (5) 社会連携・地域貢献

協定を結んでいる杉並区図書館ネットワークでは、通常の協定事業の実施が困難な中、昨年同様、協定大学図書館の紹介パネル展示を、同区中央図書館にて 8 月に開催した。このほか、対面の会議を 2 回開催し、現状の活動の報告に加え、今後の協定事業の再開へ向け、協議を行った。

また、中学生の職場体験は、2019 年以来的の実施となり、明治大学附属中野中学校からの生徒を受け入れた。

### 3.4 生田図書館事務室

生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは、理工学部・農学部の授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。2022 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながら、学修支援、教育支援、研究支援を行った。

#### (1) 開館日数・入館者数等

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を受けず、通常開館を行い、開館日数は 2021 年度と同じく 338 日となった。入館者数については、172,426 名と、昨年度比 41% 増となった。学外利用者の利用を再開していないことから、2019 年度比では 23% 減となった。

#### (2) 教育・研究支援

新入生図書館ガイダンスは実施せず、理工学部については要望により新入生全員に『図書館利用案内』を配付、農学部については自由配布とした。

新任教員向けには、学部ガイダンス時に資料配付を行った。

ゼミガイダンスについて、オンライン教材の動画提供方式と対面開催方式を、教員の要望に応じて実施する形式とした。申し込みは Forms を利用した。春学期に動画提供方式を理工学部 6 件、農学部 4 件の計 10 件、対面開催方式を理工学部 3 件、農学部 2 件の計 5 件実施した。秋学期に対面開催方式によって理工学部 3 件、

農学部 2 件の計 5 件実施した。

また、昨年度同様農学部からの依頼により、食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」（受講者 162 名）において対面にて授業（「図書館利用法と新聞記事検索演習」、「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の 2 コマ）を実施した。

農学科の「農学基礎実験」（受講者 169 名）には、オンライン教材を提供し、館内ツアーは教員が行った。

その他、外部講師によるデータベース講習会「SciFinder- n（4 回）」「Web of Science（2 回）」をオンラインで開催した。

新型コロナウイルス感染症により中断していたスタンプラリーを復活させ、4 月 8 日から 22 日まで実施した。

### (3) 企画・展示

新型コロナウイルス感染症で中止していた Gallery ZERO の展示企画を再開した

①「アーティストックウクライナーウクライナ人フォトグラファーによる写真展」（10/3～10/25）

主催：明治大学図書館

ウクライナの作家による作品とともに、関係する図書の紹介を行った。企画展の一環として、ウクライナ人監督による映画上映会とギャラリートークを 10/19 に開催した。

②「朔太郎と歩く」（12/1～12/24）主催：理工学研究科建築・都市学専攻＜総合芸術系＞

朔太郎に寄せた詩、音楽作品、写真等の展示を行った。また期間中に関連企画として「小島敬太ミニ・コンサート」を 12/19 に開催した。

③「建設設計スタジオワークス展 2023WINTER」（1/26～2/21）主催：理工学部建築学科

建築学科の授業「建築設計スタジオ 1 ab」の最終成果物となり模型、図面を展示した。

### (4) 施設・設備

雑誌コーナーの閲覧席を個人閲覧席に変更し、併せて電源コンセント増設を行った。第 2 開架閲覧室の新聞閲覧コーナーにある新聞閲覧台を撤去し、閲覧席を設けた。

生田保存書庫資料の保存対策の一環として、地下 2 階保存書庫の一部のエリアを対象に除菌・薬剤散布作業を実施した。

### (5) 蔵書

例年どおり、蔵書点検及び除籍を進めた。除籍については、生田第二中央校舎（仮称）建設に伴い、図書の一時移転スペースを保存書庫とすることから、重複本等の整理を各館に協力を依頼して推進した。

### (6) 社会連携・地域貢献

2014 年 1 月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった「多摩区 3 大学（明治大学、専修大学、日本女子大学）図書館・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議」は、以下の日程で 2 回開催した。

第 1 回 2022 年 7 月 6 日（水）会場：川崎市立中原図書館

第 2 回 2023 年 3 月 17 日（金）書面会議

### (7) その他の特記事項

生田図書館を利用する学生を対象に館内の使い勝手や、購読雑誌の傾向についてアンケートを実施した。アンケート結果を基に館内の環境整備や、今後の雑誌購読について検討を行った。

「よりよい図書館づくりにあなたの声をお聞かせください」

- ・実施期間：7/13（水）～7/31（日）
- ・対象：生田キャンパス所属の学生
- ・実施方法：Forms
- ・回答者数：40 名

## 3.5 中野図書館

中野図書館は開館から 10 年目を迎え、国際日本学部、総合数理学部と国際日本学研究科、先端数理学部研究科の利用者の学習・研究の支援を行っている。明治大学図書館の中では一番小さな図書館であるが、他の図書館にはないマンガ・アニメ関連の蔵書や国内外の写真集コレクションなどを揃えている。

業務体制は、専任職員 2 名、嘱託職員 1 名、派遣職員 1 名、業務委託スタッフ 9 名で運営した。今年度も新型コロナウイルス感染症対策の一環として、閲覧席やカウンター周辺、事務室内の定期的な消毒作業を毎日実施した。

### (1) 開館日数・入館者数等

開館日数は 336 日（2021 年度は 332 日）であった。夏季休暇・年末年始のほか 2 月の日曜日を休館とした。

年間入館者数は 79,087 名（前年度比 60% 増）で、1 日平均 235 人であった。対面授業の増加とともに入館者数も増加し、オンラインコンテンツや授業の視聴のほか、授業の合間の勉強場所としての利用も増えた。貸出冊数も増加し、24,344 冊（前年度は 19,955 冊）だった。

### (2) 教育・研究支援

図書館ゼミガイダンスについては、対面実施とオンライン動画提供の 2 種類を準備して中野キャンパス所属教員へ案内したところ、春学期 23 件（対面 13 件、動画 10 件）、秋学期は 1 件（対面 0 件、動画 1 件）の希望があった。対面実施の新型コロナウイルス感染症対策として、図書館内で検索実習も含めて行う場合は 10 名以下に制限した。おおむね受講人数の多い授業ではオンラインコンテンツの利用が多かった。

また、中野図書館で特に学部生の利用が多い英語多読リーダーの案内について、これまで国際日本学部の担当教員への資料提供という形式で行っていた案内を、図書館ホームページに掲載する形式としたことで、より幅広いアクセスが可能となった。このページでは、主な配置場所（和泉・中野図書館）、冊子・電子ブックそれぞれで利用できる多読リーダーの案内（英語だけでなく仏語も掲載）、学外アクセス方法などを掲載している。

### (3) 施設・設備

対面授業の増加に伴い、パソコン利用可能席は 1 テーブル 1 人としたものの、その他の閲覧席はほぼ通常どおりの数に増やして提供し、利用可能席数を前年度の 111 席から 125 席とした。その他、カウンターのビニールカーテン、ラウンジのパーティション、館内の消毒物品設置は前年度と同様に継続した。

館内に 3 台備え付けられているデジタルサイネージのうち 1 台が 2022 年度中に経年劣化のため使用不能となった。この結果、既存のデジタルサイネージ 3 台のうち 2 台が使用不能となっている。また、館内入口近くに設置してある、床に固定された OPAC 台のうち、LED 電球が寿命となる台が数台出てきた。電球交換には OPAC 台の取外し工事が必要となるため、現在、工事実施について調整中である。

### (4) 蔵書

書架狭隘化対策として 2016 年度から行っている生田保存書庫への図書移転は、中野図書館から生田保存庫へ過去に送った図書のうち 1,077 冊を除籍したうえで、3 月に 966 冊の利用頻度の低い図書を生田図書館へ移転した。この除籍冊数とほぼ同数を移転する管理方法は 2021 年度より開始したもので、今後、生田保存庫への移転はこの方法で 2 年に 1 度のペースで行う。

また、2022 年 7 月で閉館となった神田神保町のミニシアター、岩波ホールより、同ホールが開館した 1974 年から 2021 年までの間に上映された映画パンフレット、全 135 点が寄贈された。これは、中野キャンパスで映画研究の授業が開講され、また中野図書館でも一定数の映画研究資料を所蔵しているため、先方から受入の打診があったものである。再調達が難しい資料のため、館内利用のみとし、集密書架にて 9 月から保存・利用に供した。同ホールと本学駿河台キャンパスは地理的にも近く、また、本学教員がパンフレット執筆を依頼されたり、言語研究分野で協力を要請されたりした経緯がある。縁あって譲り受けた貴重な資料を今後も保存・活用していく。

### (5) 社会連携・地域貢献

中野区立中野図書館へ大学刊行物を不定期に送付している。また、受験生などキャンパス見学希望者には図書館内への自由見学を受け入れた。

11 月の中学生職場体験では、明治大学附属中野中学校の生徒を 3 名ずつ 2 日間受け入れた。書架整備作業のほか、おすすめ本を選んで紹介文を作成する業務を体験し、おすすめ本と紹介文は館内で展示を行った。